

函館市福祉のまちづくりフォーラム2024

いまだから「ひとりの想い」を文化にする ～あらゆる住民による支え合いと地域づくり～

社会福祉法人ゆうゆう理事長
北海道医療大学 理事 客員教授
大原 裕介

北海道 5 市町村・東京都文京区における事業展開

当別町

法人本部の所在地

当別町・北海道医療大学と連携のもと、住民
同士が支え合いによる共生型地域福祉の事業

江別市

江別大麻エリアで、重度障害児者の地域生活支
援システムの構築及び商店街活性化事業

苫小牧市

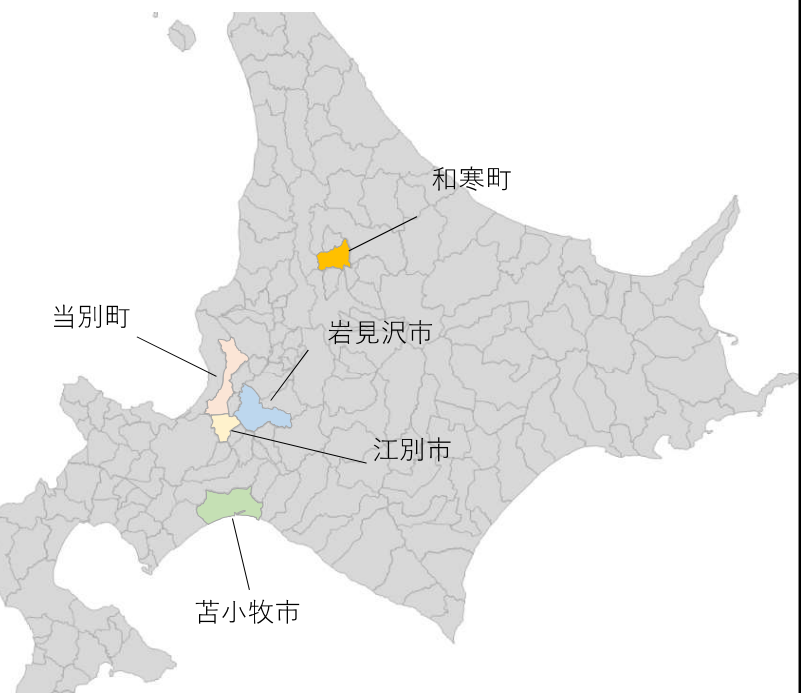
指定管理による地域共生型拠点と図書館を融合
させた交流サロンと社会的サポートが必要な子
どもの第3の居場所事業

岩見沢市

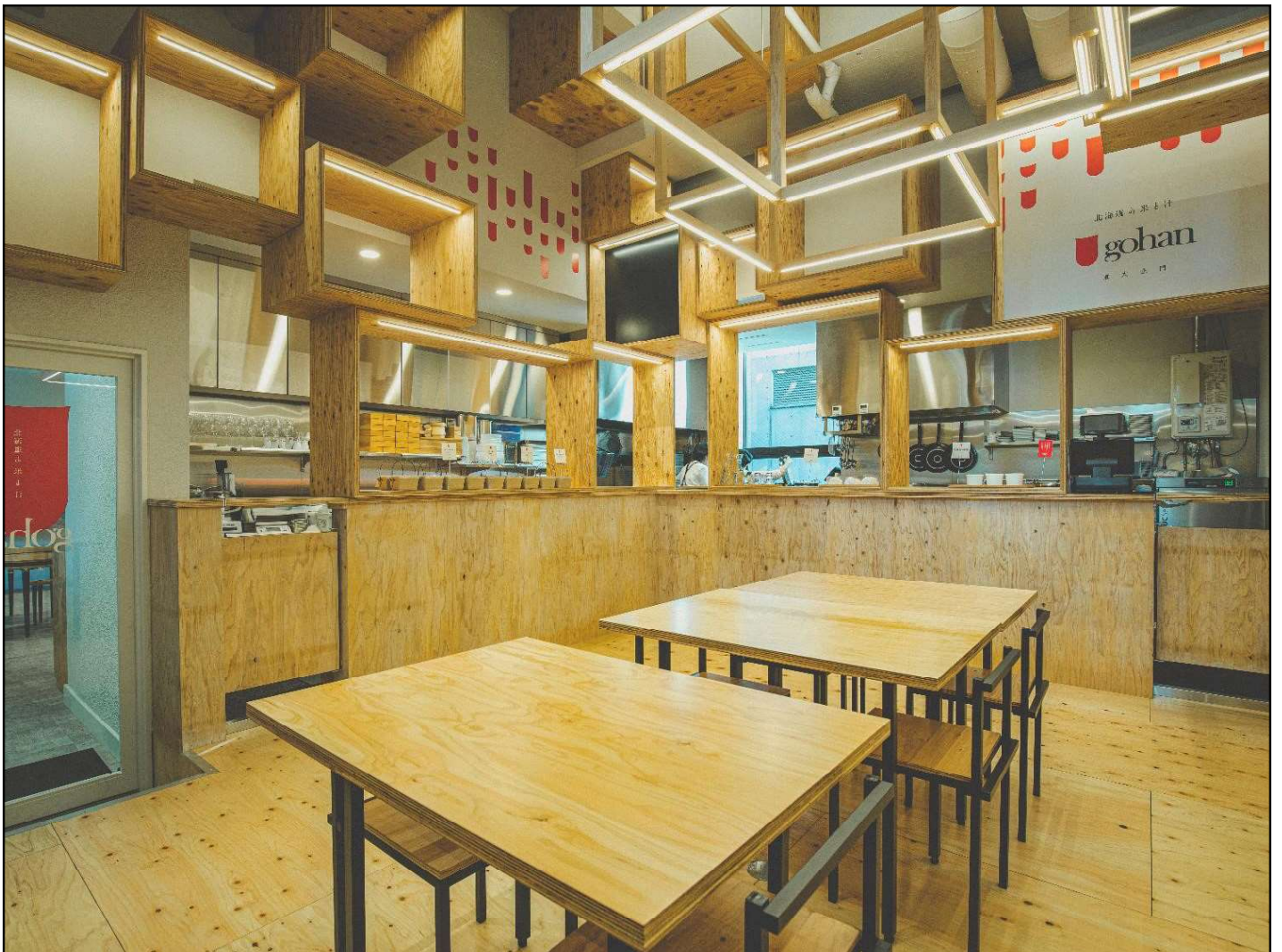
岩見沢市と連携のもと、空き店舗の常設ギャラ
リーの展開など障害者の芸術文化推進事業

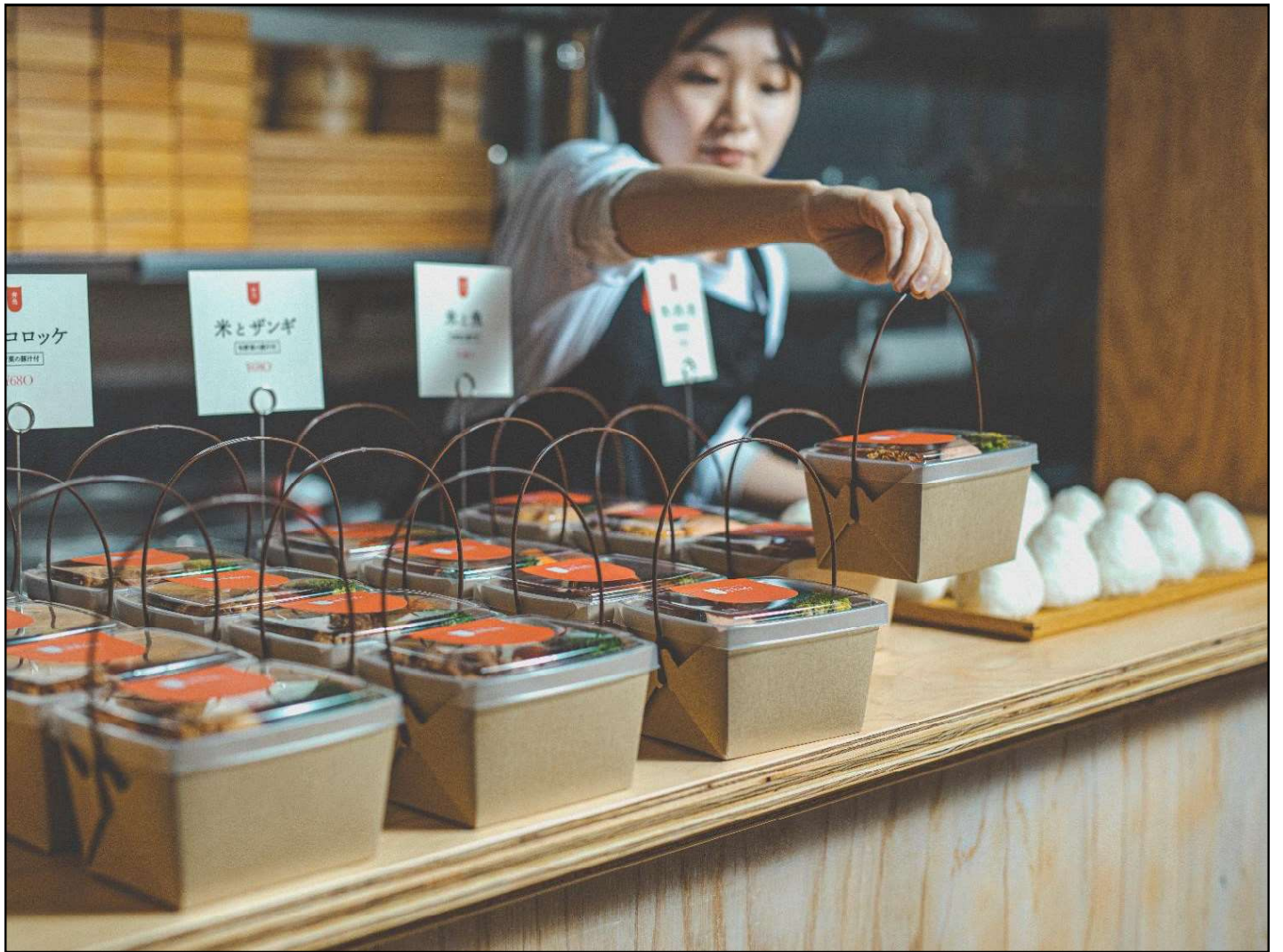
和寒町

特別養護老人ホーム建て替えを契機とした福祉
を越境した「まちづくり」事業の和寒町・地域
住民・設計事務所と協働によるプランニングお
よび推進事業



東大U – gohan





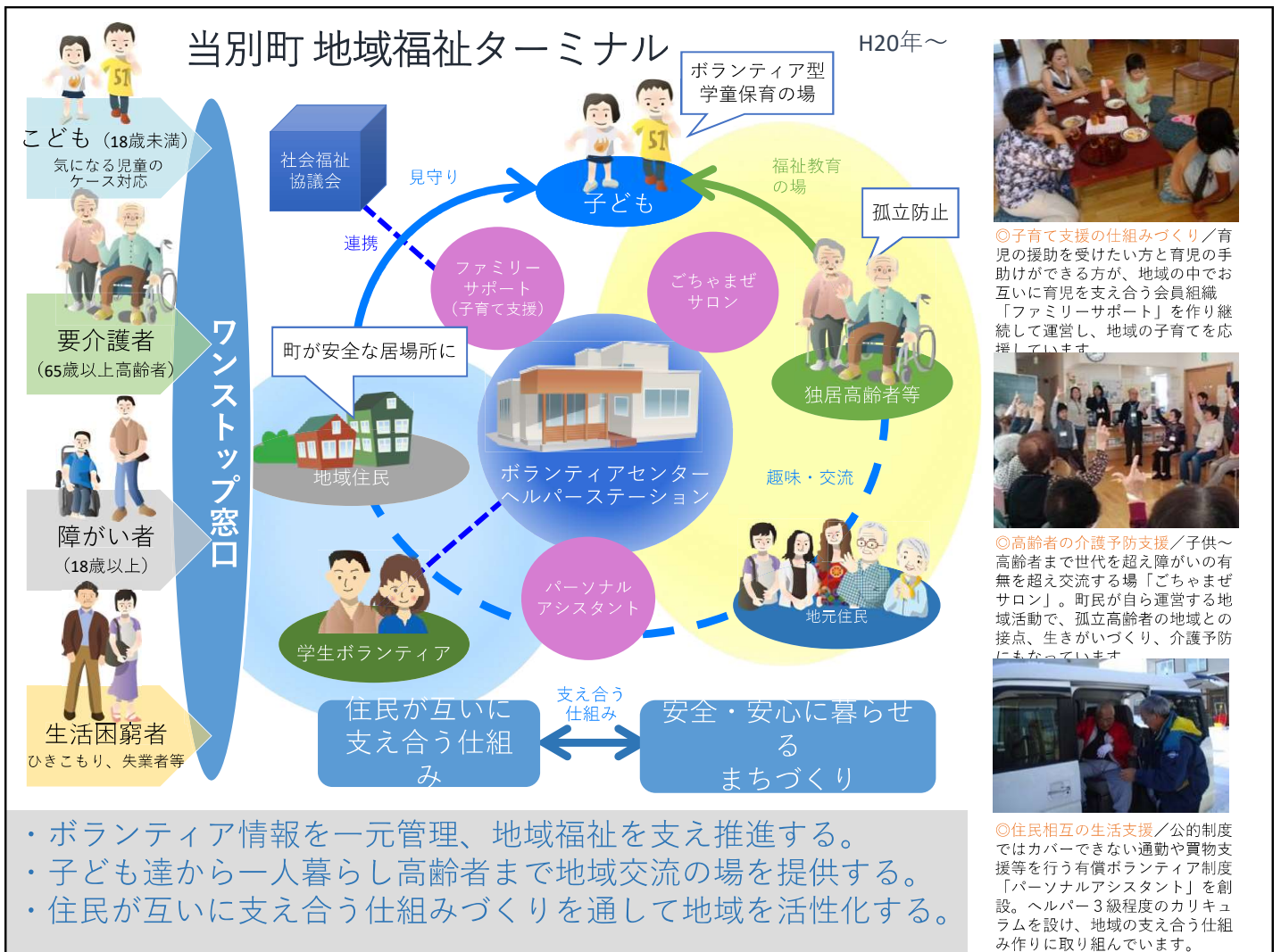


大学生によるインフォーラムサービスの展開

障害児者支援からあらゆる住民を対象とした共生型支援への発展

- 空き店舗を活用したボランティアセンター
- 当別町における障害児者社会資源が不足
- 学生任意レスパイトサービス事業の設立
- 地域を社会資源とする事業展開
- 障害児者支援から共生型支援への発展
- サービス受益者がサービス提供者に
- 0歳から96歳までのサービス
- 住民が住民を支えるシステムの創設
- 3年間の活動を経てNPO法人を起業





地域共生型パーソナルアシスタント

制度外のサービスに応えるための住民が住民をサポートする仕組み

当別町オリジナルの養成講座

27.5時間の講習＋実習

分野横断的に幅広い分野を学ぶことができ、
担い手を養成するオリジナル講座を開発

講習

子どもから高齢者、障がい、生活困窮者に関わらず、
幅広い範囲の知識を身につけられる内容。

実習

これから実際に関わるであろう方たちと触れ、体験し、
講義内容の理解が一段と増した様子。

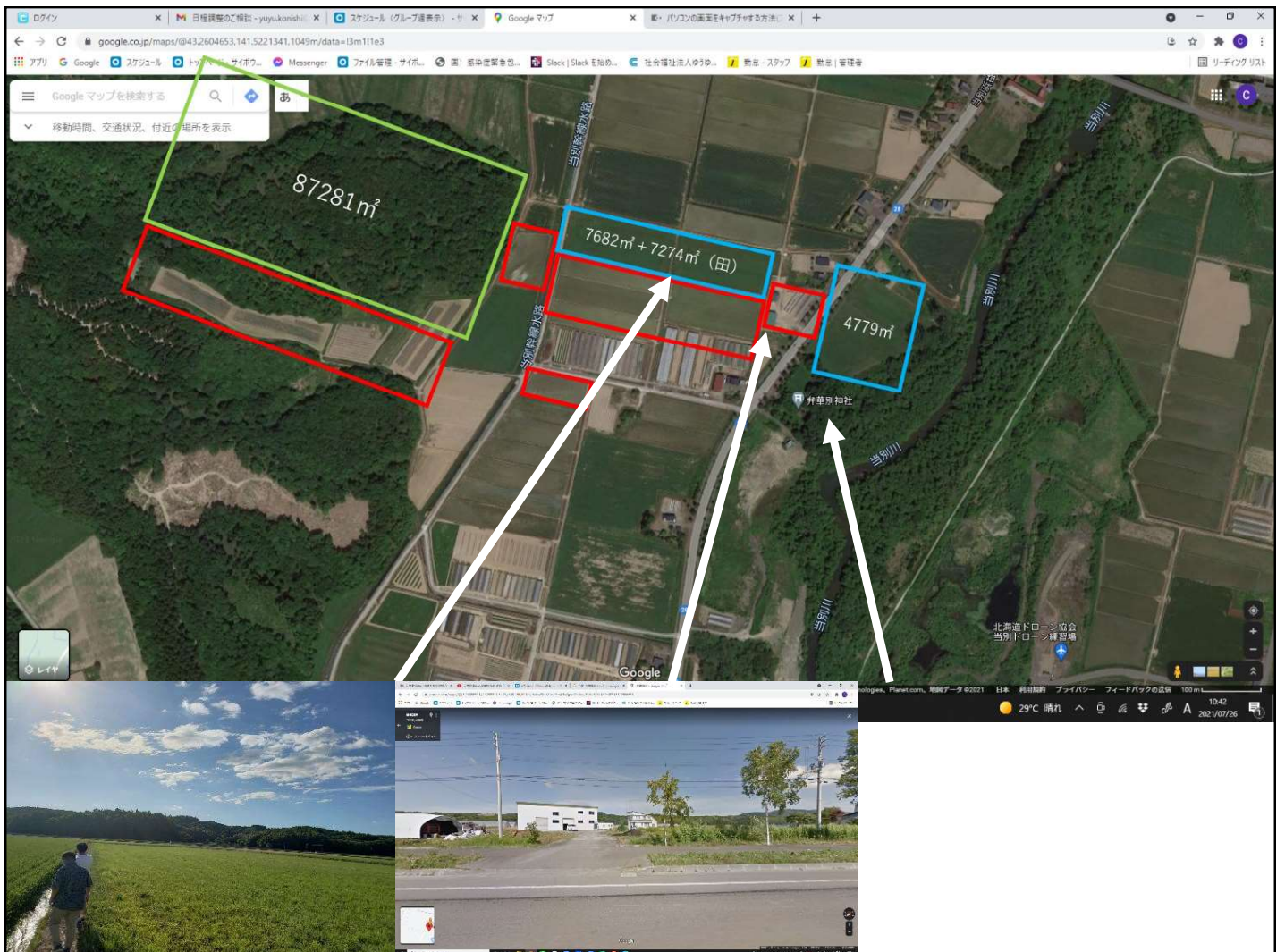








農業と林業と福祉







いっしょに、もりとあそぼう

第4回 森とくらす

定員 80名

小学生以下のお子様は、
保護者様同伴をお願い致します。
大人のみさんの参加も大歓迎です！

参加費 500円

お食事メニュー

- ・焼きおにぎり
- ・豚汁
- ・ウィンナー
- ・焼きマシュマロ

日時

11月2日土曜日 11:00～13:00
(雨天中止)

会場

野布瀬の森 自然に生える木を大切に育て、何年何百年と続く森へと育てることを目指しています

集合場所

野布瀬農園倉庫 当別町弁華町63
※駐車場満席の場合
弁華町会館 当別町弁華町58-6 (野布瀬公園まで徒歩5分)

持ち物

汚れてもいい服
暖かい服
水分・帽子・軍手
森を歩ける靴

問い合わせ
はこちら

にしごり
☎ 090-9522-8478

やまさき
☎ 080-8280-9776

あらゆる住民の居場所となる農業とは



私たちの農業のステークホルダー

子どもたち

高齢者・認知症の人

ひきこもりの人

生活困窮者の人

障害のある人

大学生

農業者

デイサービスを拒否する若年生認知症の方の物語

- ・ 若年性認知症になったことによって仕事を失い、家族との縁も切れる
- ・ デイサービスを勧められるも「こんなところにいたくない。もっと働きたい」と希望
- ・ 表情も硬く、心を閉ざしている様子
- ・ 職人として父としてのぽっかりを埋めることができるのか？



地域の人たちと営む農業が居場所となっていく

地域に暮らす農業サポーターの方を仲間に「農業をみんなでやるのが好き」
参加されるたびに「今が一番楽しい！」作業が遅くてもそばで気にかけてくれる



居場所が彼をリカバリーしていく

- ・ 農作業をしている表情がどんどん柔らかく
- ・ いつもYシャツを着てこられるように
- ・ 彼を中心に輪ができ、帰り際にみんなに手を振って挨拶される



はたらくのその先に

工賃は、大好きなお酒とタバコに
お仕事中の写真を娘さんに送ると父に会いたい
Yさんが本人らしく暮らすとは



図書館をデザインする

苫小牧市東開文化交流サロン

Tokai Regional Cultural Exchange Center

「苫小牧市東開文化交流サロン」は
図書機能と福祉拠点機能を兼ね備える
苫小牧市の公共施設としては初となる
共生型地域福祉拠点です。



交 流 を デ ザ イン す る

・

人 が 文 化 を 創 る

・

多 様 性 が 寛 容 を 生 む

文化の創造・集積・発信に係るさまざまな機能をつかって
紡がれる人と人とのつながり。

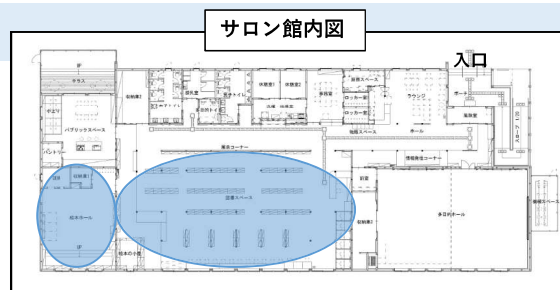
自分と異なる他者と出会い、共に過ごす。

「多様性」の中に身を置くことが当たり前になる中で、
他者に「寛容」になれる人とまちづくりを行うサロンです。

苫小牧市東開文化交流サロン内の機能①

【図書スペース・絵本ホール】

- 約 **2万8千冊** を蔵書予定
- 布絵本、大型絵本など含め約5千冊を
収蔵予定の市内屈指の「**絵本ホール**」
- ブック・コーディネーター内沼晋太郎氏（NUMABOOKS代表／株式会社バリューブックス取締役）
をアドバイザーに迎え、「**能動的で多様な図書スペース**」を目指す



苫小牧市東開文化交流サロン内の機能②

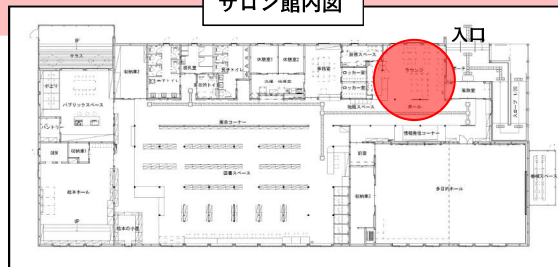
【カフェ店舗の運営】

パーラー東開町2丁目



- 札幌のメパフェ有名店「パフェ佐藤」監修による本格スイーツメニューとドリンクを提供
- 就労支援事業所として障がいのある人が働く場所

サロン館内図



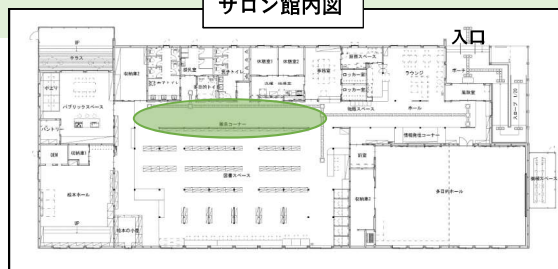
苫小牧市東開文化交流サロン内の機能③

【ギャラリースペース】

- 入館者が行き交うストリート沿いのギャラリースペース。真白な壁面が、人が生み出す渾身の、多様な表現に彩られる。新たな価値観との「出会い」の場。



サロン館内図



【多目的ホール】

【パブリックスペース】

- 式典・研修等に適する収容量と充実の設備を有する多目的ホール（193㎡）
- キッチンや小上がり、パントリーなど多機能充実でリラックスして交流できるパブリックスペース



「地域にサロンが出来る」ということの意味
～「サロンづくりサロン」を通じた多世代の語り合い・学び合いの実践～

苫小牧市東開文化交流サロン地域懇談会



「サロンづくりサロン」の開催

2022年9～10月／全3回
東開町内会総合福祉会館
+ オンライン

第1回 9月18日(日) 13:00-15:30 交流

人との交流がちょっとずつ社会を良くしていく
世代、性別、障害の有無などを超えて、あらゆる人が共に在ること

第2回 10月6日(木) 13:00-15:30 図書

皆でつくる、これからのまちの図書館
賑やかさが心地良い？新たな価値に出会える場所

第3回 10月15日(土) 13:00-15:30 子ども

「子どもが大切にされるまち」とは？
地域で子どもを見守り、育む。子どもが生き生きしているまち

「交流」「図書」「子ども」の3つのテーマをもとに、現地にお招きしたゲストスピーカーの話を聞いて、サロンが苫小牧市にとってどのような場所となり、どのような役割を果たしていくことができるか、参加者同士で語り合い考えていきました。

「地域にサロンが出来る」ということの意味 ～「サロンづくりサロン」を通じた多世代の語り合い・学び合いの実践～



町内会・自治会
役員の方々から
子育て中のお母
さんまで、幅広
い年代の方々が
参加。



サロンのこと・
地域のことを考
えることをきっ
かけに、今まで
出会わなかった
住民同士が出会
い、お互いの想
いや意見を語り
合う機会となり
ました。

子どもたちと福祉

4つの介護・福祉の「リアル」で魅力を伝える

4つの切り口で介護・福祉の「リアル」を伝え「自分ごと」として考える福祉教育プログラム

福祉の対象者を「かわいそうな人」や「大変な仕事」というイメージが先行しているものを、当事者や支援者、関わる若者等の「リアル」との出会いを通じて、福祉のイメージが変わり、身近な事として感じたり、考え方・生き方を考えてもらう福祉教育プログラムを実施しています。

授業テーマ	登壇者	内容
社会のリアルとわたし	福祉法人等経営者（職員）	●これからの社会に対して、どういうことが起こってくるのか考える。 「子どもが減るとは？」「働く人が減るとは？」等 ●今の社会課題に逃げずに立ち向かう福祉実践の在り方。 ・重度障害者がはたらく話 ・おばあちゃんが農業で活躍する話
大学生のリアル	福祉を学ぶ・関わる大学生	●大学生が語る福祉の魅力（グループワーク） ・福祉と出会ったきっかけ ・エピソード（受験失敗談・実習等）
当事者のリアル	障害・高齢者等の当事者	●当事者の人生をひも解く ・これまでの人生について ・福祉と出会って変わったこと
支援者のリアル	介護・福祉施設の支援者	●若手職員が語る福祉の魅力 ・福祉と出会ったきっかけ ・エピソード（当事者とのかかわり等） ・なぜ福祉の道へ進んだか

©FACE to FUKUSHI

41

【令和5年度】福祉教育の取り組み：全国10エリアに

project
福祉教育

FACE to FUKUSHI

小中学校・高校生へ介護・福祉の魅力を伝える

令和2年度実績

全国4エリアで中学校・高校の36校2,500名に介護・福祉の魅力を伝える

社会福祉法人、福祉系大学、NPO等の多様な主体による協働モデルで実施
4つのリアルで若者に介護・福祉の魅力を伝える授業ノウハウが蓄積（社会と私、当事者、若手職員、大学生）

実施前と後で
介護・福祉に対して

- ・興味関心のある生徒…2.4倍に！
- ・進路に含める生徒…2倍に！
- ・満足した先生…85%
- ・授業が有意義だと思った先生…91%
- ・継続希望の先生…91%

POINT 1

4つのリアルの更なる普及とブラッシュアップ エリア及び介護事業所や行政等との協働の拡大

全国8エリアに拡大！ 小学校含め中学校50校5,000名に介護・福祉の魅力を伝えます！

行政・教育委員会・介護サービス事業所連絡協議会・県/市社協等との協働モデルもスタート

受講後、関心のある学生向けの施設見学等や公式LINE案内を行います。

POINT 2

介護・認知症に特化したプログラムの実施

地域フィールドワーク、介護・認知症に特化した介護のリアルを伝える

目指す成果

- ・介護・福祉のイメージが肯定的に変化7割以上
- ・進学、就職等へ肯定的変化が3割以上
- ・施設見学や公式LINE等への登録が5%以上に

18

©FACE to FUKUSHI

42

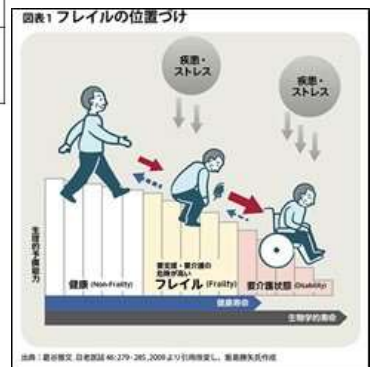
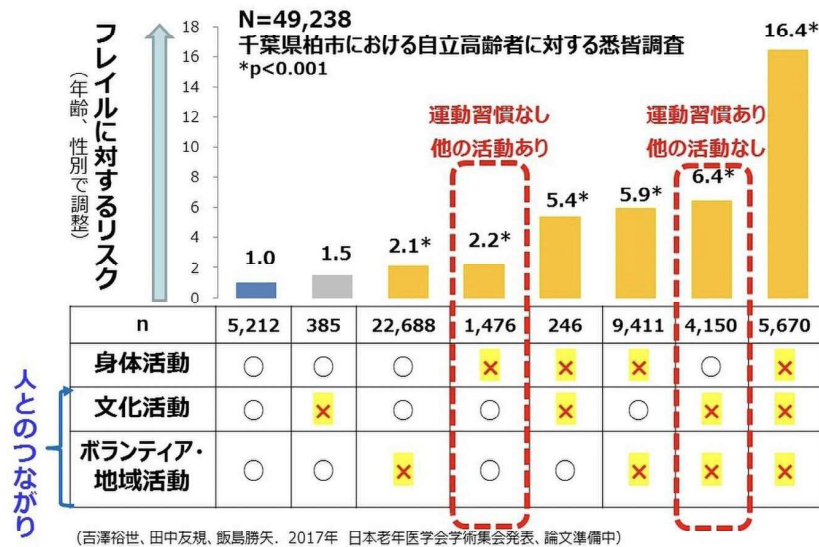
【令和3年度】実施エリア一覧

エリア	実施主体	実施校数	実施テーマ
北海道	福祉系大学×社会福祉法人	10校	ミクロ・メゾ・マクロの視点で介護・福祉の魅力を伝える福祉教育
新潟	県社協×社会福祉法人	5校	高齢者介護を始めとする多様な福祉を切り口とした福祉教育
千葉	福祉系大学や大学ゼミ	8校	大学教員及び大学生が語る介護・福祉のリアルを伝える福祉教育
神奈川	複数の介護事業所連携	5校	先進的な介護事業所連携による介護のリアルを伝える福祉教育
愛知	福祉系大学×市社協	5校	福祉系大学と社会福祉協議会連携による大学カリキュラム導入型福祉教育
大阪	NPO法人単独	6校	NPOやボランティア等で活動する大学生等による福祉教育
福岡 大牟田 市	市役所×教育委員会× 介護サービス事業所連絡協議会	5校	市役所と教育委員会及び介護事業所ネットワークによる介護を伝える福祉教育
長崎	社会福祉法人単独	6校	若手職員や障害当事者が伝える介護・福祉のリアルに迫る福祉教育

福祉教育での出会いと気づき

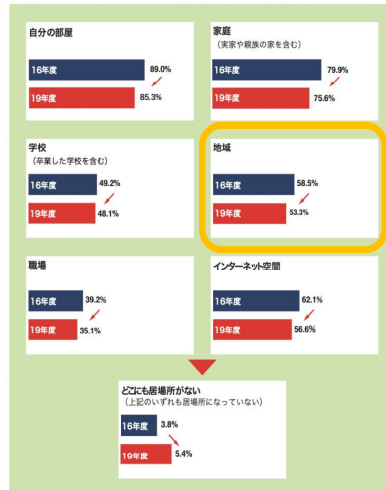
- おじいちゃんの食事介助を決めた中学生
- 福祉を進路に決めた子どもたち
- 自分の兄弟のことを初めて話げた高校生
- 友達の不登校の不安を声を上げてくれた高校生
- 不登校になれない高校生
- 逃げ方がわからない高校生
- 自分の教育に悩んでいる中学校の先生

フレイル予防には「人とのつながり」が重要 －様々な活動の複数実施とフレイルへのリスク－

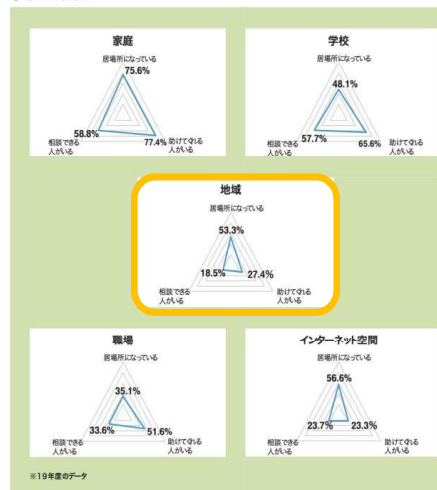


2. 周囲について

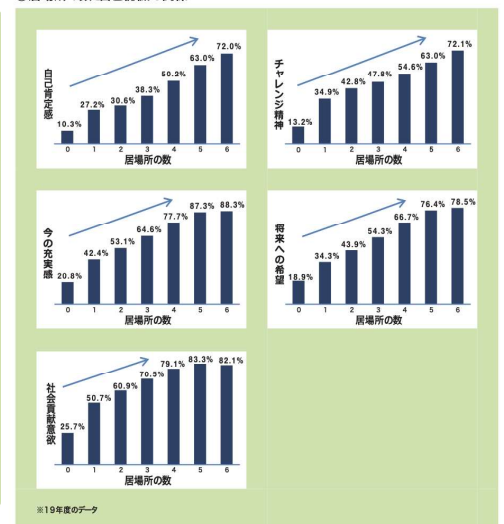
①居場所 — 次の場所が、ほっとできる場所、居心地のよい場所等になっている



④場ごとの認識



⑥居場所の数と自己認識の関係



居場所の数（自宅、家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の多さと自己認識の相関性は、概ね相関。

内閣府「子供・若者インデックスボード」
https://www8.cao.go.jp/youth/index_board/pdf/print.pdf

自治体をケアする北海道和寒町



人口：2915人（令和5年11月）
高齢化率：45%

かぼちゃの作付け面積日本一
越冬キャベツの生産が有名

対象となる特別養護老人ホームとデイサービスの老朽化



<特別養護老人ホーム芳生苑>

本部棟・東棟(50床) 昭和51年建設 **46年経過**

西棟(50床) 昭和55年建設 **42年経過**

・電気床暖房の電熱系統の不具合 ・給水給湯管の腐食 ・耐力壁構造のためレイアウトの変更不可能
ショートステイ用居室(個室5室) 平成11年度整備 ・東棟の存廃によっては改築計画の中に

<デイサービスセンター健楽苑>

・平成6年建設 **28年経過**

・利用者の重度化によりトイレの全面改修の
必要性

・経年劣化による浴槽壁面の大規模改修

芳生苑等の大規模改修

年度	主要内容	金額 (千円)	財源内訳		
			起債	基金	一般財源 (町)
平成27年度	芳生苑東棟居室改修14室、診療室改修	23,152		23,152	
	健楽苑外壁改修	18,468		18,468	
平成28年度	芳生苑西棟居室改修15室	20,714	20,700	14	
平成29年度	芳生苑空調整備・ナースコール更新	18,360	9,000	9,360	
	健楽苑空調整備・和室床改修	11,124	5,400	5,724	
平成30年度	芳生苑特別浴室改修・介護浴槽設備更新	13,824	6,900	6,924	
令和元年度	芳生苑給湯設備改修工事(東棟・管理棟)	9,234		4,920	4,314
令和2年度	芳生苑給湯設備改修工事(西棟)	8,580	8,500		80
	計	123,456	50,500	68,562	4,394

北海道新聞

故郷の特養 閉鎖の危機 高齢者「どこに行けば」＜「介護難民」時代＞上

会員限定記事

2023年11月16日 23:00(11月21日 18:28更新)

あとで読む

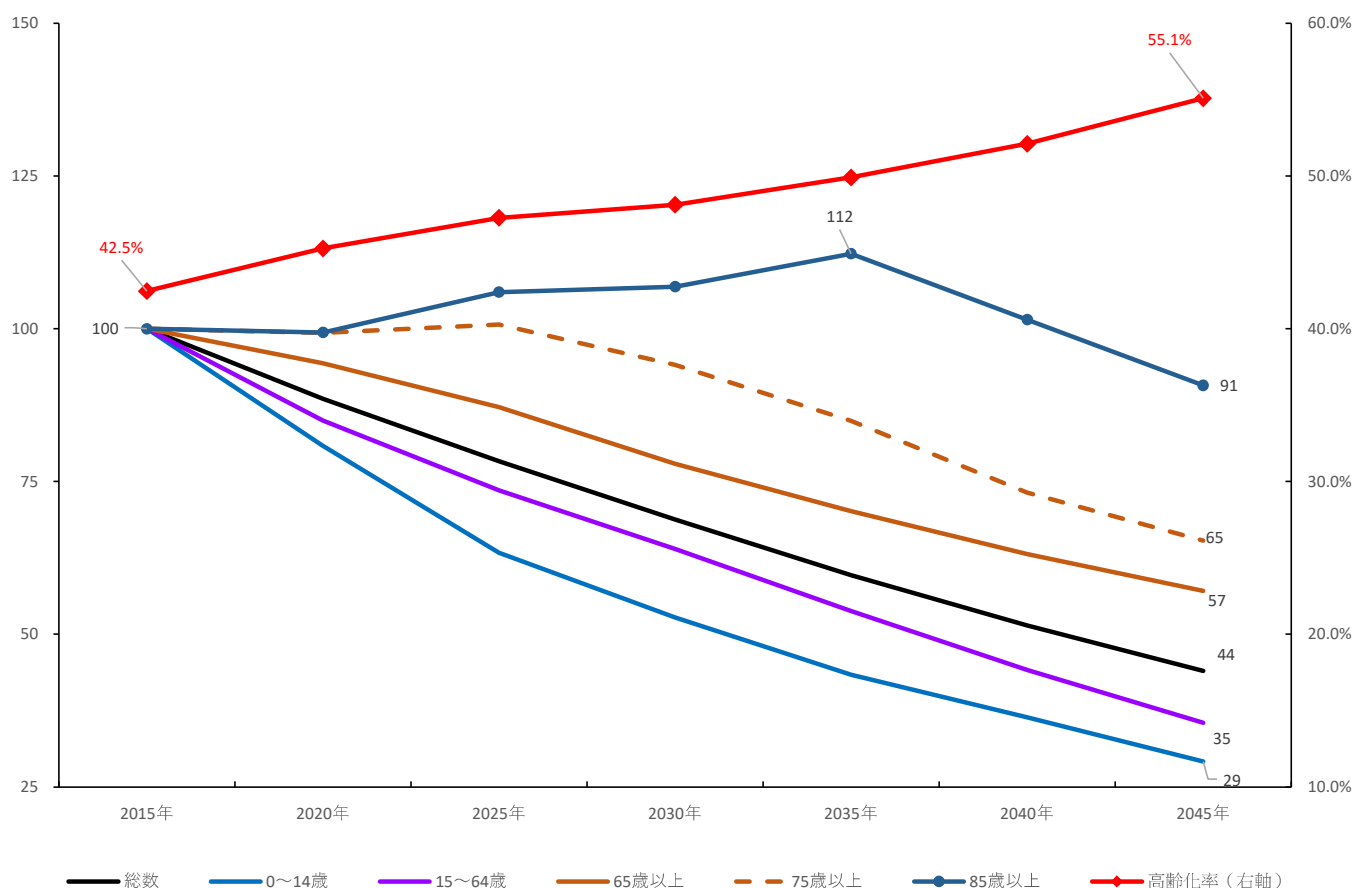


地元で最期を迎えられるはずだった。

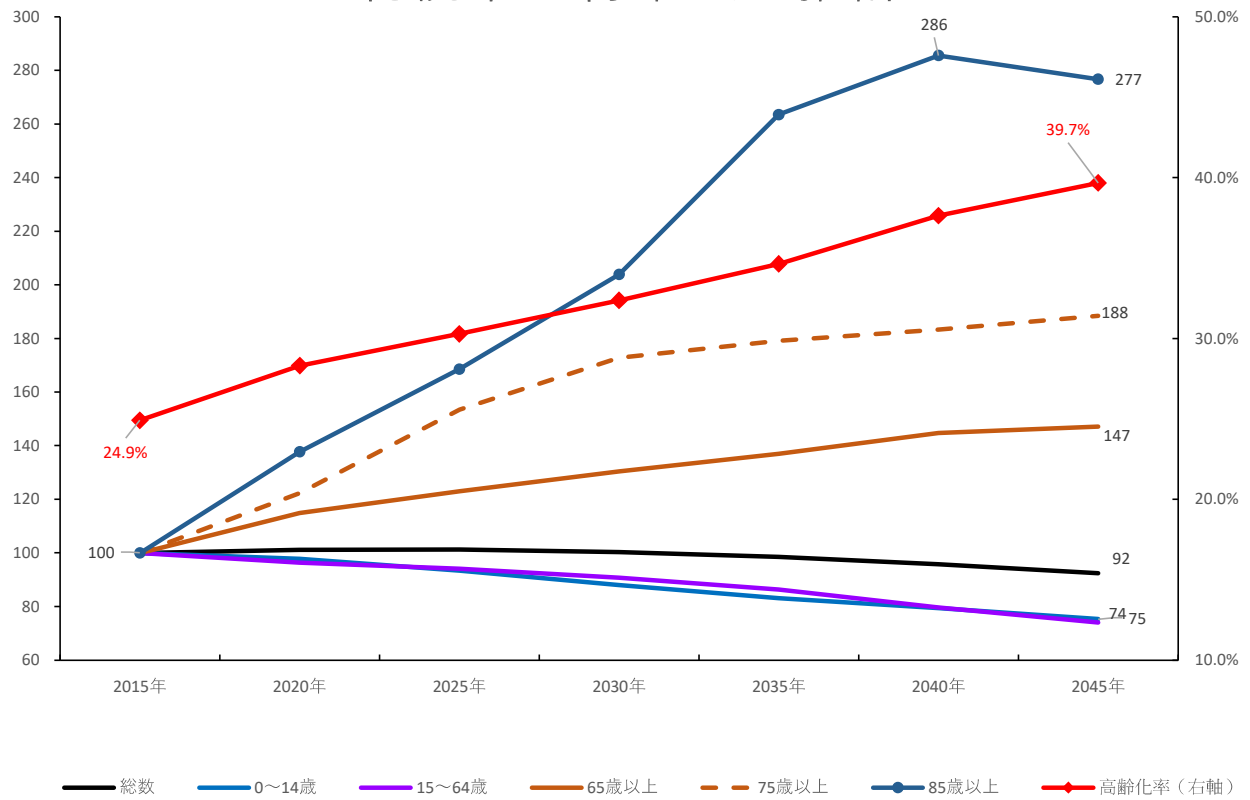
留萌管内遠別町出身の鍋島奉子（ともこ）さん（96）は今年2月、町内唯一の特別養護老人ホーム「友愛苑」を出て、約200キロ離れた札幌の特養へ移った。



和寒町将来人口推計



札幌市の将来人口推計



まちの人たちの対話・想いに触れる

ふくしのまちづくりプロセス



和寒町ふくしのまちづくりサミットの開催

和寒町ふくしのまちづくりプロジェクトのスタートアップとして、専門家やゲストをお招きし、「和寒町ふくしのまちづくりサミット」を開催

令和5年6月18日 延べ参加者数 100名

実施内容

- ・プロジェクトの意義と社会背景をテーマにした基調講演、福祉×建築の対談を実施
- ・「みんなで和寒町をデザインする」をテーマに和寒町の魅力について再発見するワークショップ

サミット参加者からの感想（一部抜粋）

- ・介護や子育てを分けて考えるのではなく、一緒に考えれば良いと気づいた
- ・自分とは違う世代の人の話を聞くことで、和寒の新たな魅力に気づくことができた
- ・福祉の箱物を作るのではなく、町を作るとのこと。勉強になった。
- ・コミュニティーを豊かなまちづくりが実現できるよう自分も頑張りたい

サミットを開催して

- ・本プロジェクトは、「特養建替」が喫緊の課題をアジェンダとした「まちづくり会議」などのフォーラム等が開催されてきた経緯から、地域のなかには介護が推進されるプロジェクトとの認識が存在していた。

*フォーラム開催によって、参加者のなかに特養建替のみ検討するものではないとの認識が芽生えた。



和寒町ふくしのまちづくりLABの開催

町民の意向反映を軸とした「ふくしのまちづくり基本構想」および「中核となる福祉施設の基本計画」の策定に向けて、様々な立場、職種、年代の方による意見交換から、まちづくりを研究すること、町民が主体的性を持ってまちづくりに関わる意識と行動の醸成を目的として開催

令和5年7月20日～22日 延べ参加者数 81名

* 地域福祉・保健・教育、子育て、農業者、観光協会、商工会等、分野世代ともに幅広い参加者

実施内容

- ・「特養を社会資源とした取り組み」及び「地域共生の取り組み」をテーマに事例紹介
- ・和寒町でこんなことができる、こんなことをしたいなをテーマにワークショップを開催

まちづくりLABを開催して

- ・サミットとは違い、子育て世帯や教育、農業者や観光協会などの多彩な分野の参加があった。
- ・サミットはいわゆる「いつも参加する人」がメインであったが、あらたな参加者層が見受けられた。
- ・学びとワークショップをセットにした開催内容であったが、概ね満足度は高い
- ・今後も継続して開催して欲しい、継続的に参加するとの声もアンケートから明らかになった
- ・関心度が高く、熱心な町民であるとしても、人口に占める参加者の割合は大きいものと評価できる



ヒアリング調査実施について

ヒアリング実施（サミット終了後の6月～）

- ・小学生（５年生）・中学生（２年生）：認知症サポーター養成講座に合わせて実施
- ・障害児の保護者に対するヒアリング調査
- ・特別養護老人ホーム「芳生苑」職員
- ・民間介護事業者２者

＊農業者、商工業者にはイベント等を通じて、意見交換を実施

＊不足する情報については、和寒町役場職員に対するヒアリングを実施

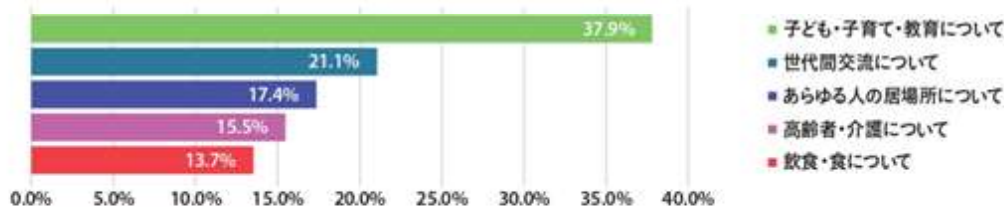
＊和寒町役場との打ち合わせから、まちづくりLABをヒアリングに位置付け、深掘りが必要なヒアリングについては、今後、個別・団体等に対するヒアリングを実施

＊新たな拠点の運営事業者となる可能性の高い「芳生苑」の職員に対するヒアリングを重視し、幹部職員１６名に対する個別ヒアリング及び５１名の職員に対する意見交換会を実施する。

想いや声を紐解き見えてきたこと

和寒町で「こんなことできる」「こんなことできたらいいな・したい」ことについてご意見をいただき、161個の意見が集まりました。
この意見を「子どもに関わること」「世代間交流」「居場所」「高齢・介護」「食」「サービス」「観光」「余暇・文化」「仕事」「障がい」「その他」のいずれかに分類しました。

参加者の皆さんの年齢や職種がバラバラの中で「子ども」のことにに関する意見が4割あることは特筆すべき点であり、本プロジェクトでも重視すべき点です。



ふくしのまちづくりラボで頂いたご意見をご紹介します

子ども・子育て・教育について

- ・子どもがのびのび過ごせるようにしたい。
- ・子どもや若者が多いまちにしたい。
- ・子どもと遊びたい。

世代間交流について

- ・年代関係なく聞かれるサードプレイスが欲しい。
- ・高齢者も子どもも、障がいのあるなしに関係なく集まれる場が欲しい。

あらゆる人の居場所

- ・イベントごとでなくても、毎日のように集まれるようにしたい。
- ・子どもの面倒をみたり一緒にご飯をたべたり、隣人とのゆるやかな交流をしたい。

第6次和寒町総合計画 住民アンケート調査を見つめる

第6次和寒町総合計画住民アンケート調査は、和寒町が総合計画を策定するにあたって、令和元年12月に町民1000名を対象にアンケート調査を実施し、回答者483名のご意見をまとめたものです。

目指すべきまちの将来像を描くとき、
ふさわしいキーワード

安心・安全	47.4%
思いやり	32.9%
生きがい	26.9%

最も多く挙がったキーワードは、「安心・安全」でした。続いて、「思いやり」「生きがい」の順に多いです。町民のみなさんが「人」を大事にし、人との結びつきや支え合い、人が輝き続けることをイメージしていることが傾向として表れています。

社会福祉・保健医療などの分野で重要と考えること

病院などの医療環境	65.8%
高齢者への支援施設の整備	47.8%
障がい者(児)への支援	47.4%

和寒町を転出する理由

医療・福祉面での不安	72.2%
交通が不便	72.2%

医療環境についての意見が最も多いのは、医療体制が変わったことが大きく影響していると想定されます。また、小さな自治体では、このような問いで「医療」を重視する傾向があります。注目すべきは、「障害者(児)への支援」を重視する意見が3番目が多いことです。今後検討すべき重要な視点と考えます。



第6次和寒町総合計画住民アンケート調査にて、「今の場所に住み続けたい」「町内の別の場所に移りたい」「住み続けたいが、町外に移ることになる」と回答した人の割合。

ふくしのまちづくりラボ ワークショップのご意見を見つめる

7月20-22日に開催されたふくしのまちづくりラボでは、総勢81名の方にご参加いただきました。皆さんには、「したいこと・やりたいこと」についてご意見をいただき、161個の意見が集まりました。この意見を、「子どもに関わること」「世代間交流」「居場所」「高齢・介護」「食」「サービス」「観光」「余暇・文化」「仕事」「障がい」「その他」のいずれかに分類し、どの種類の意見が多いのかを円グラフに示しました。

ご意見の分布は、以下の通りになりました。



まちづくりラボで頂いたご意見をご紹介します

子ども・子育て・教育について	世代間交流について	あらゆる人の居場所について
子どもがのびのび過ごせるようにしたい。	年代に関わらずサードプレイスが欲しい。	イベントごとでなくても、毎日のように集まれるようにしたい。
子どもや若者が多いまちにしたい。	高齢者も子どもも、障がいのあるなしに関係なく集まれる場が欲しい。	子供の面倒をみたり一緒にご飯をたべたり、隣人とのゆるやかな交流をしたい。
子どもと遊びたい		

■少子化・人口減少対策として有効と考えること



■町内移動・転出をする理由



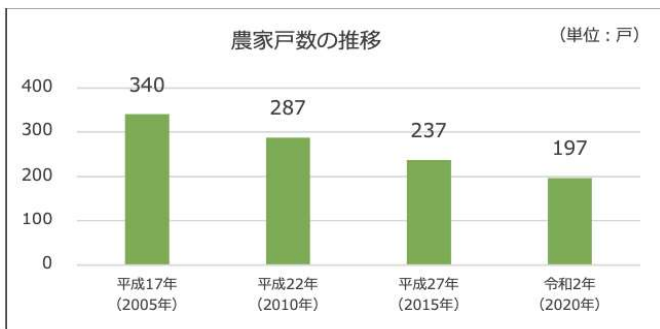
■消防・防災・生活安全・産業について



マッチング機能として、岡山県奈義町で取り組んでいる「しごとコンビニ」を参考としており、そこでは、少しの時間でも働きたい人と、働いてほしい人をマッチングするハブ機能があります。

子育て世代の方やフルタイムはちょっと苦手という方にも、ゆとりの共有スペースで一休みしながらお仕事に取り組んだり、子どもの一時預かりなどがあると助かります。

農業の現状と課題



資料：第5次 和寒町農業・農村振興計画より



資料：第5次 和寒町農業・農村振興計画より

農地の流動化については、農業政策の転換等による先行き不透明感、農業者の高齢化や担い手不足を背景に、今後、経営規模の縮小を図る農業者や離農する農業者が増加すると考えられ、その農地のなかには、引き受け手のない農地が増加することが懸念されます。

労働力の確保については、規模拡大や高収益農産物の導入による農業経営の複合化や農業従事者の高齢化により労働力が不足しており、人材派遣会社を活用する動きも出てきています。

基本理念と方針

5つのビジョン

65

基本理念・基本方針について

- 基本理念・基本方針に策定について、「新たな施設の機能候補（案）」作成の際に参考としたヒアリング調査やふくしのまちづくりラボでの意見、また第2回の和寒町ふくしのまちづくりサミットでのワークショップの住民の意見に基づき作成するものとする。
- 和寒町第6次総合計画等の各種計画の住民アンケートも作成にあたって参考する。

基本理念（案）

共愉するまちを創造する

基本方針（案）

- （1）自分たちで考え自分たちで行動する。
- （2）お互いを思い、楽しいまちづくりを追求する。
- （3）誇れるまちとなる実践を展開する。
- （4）誰しものが安心して住み続けることができる地域福祉を展開する。

基本理念を実現するための5つのビジョン

- （1）最期まで暮らし続けることができる特別養護老人ホームの体制構築
- （2）あらゆる住民が安心して在宅生活を送ることができる在宅支援サービスの体制構築
- （3）子どもたちが大切にされる機能の構築
- （4）あらゆる住民が活躍できることを実現する「雇用創出」機能の構築
- （5）和寒町の特色である農業・食文化を推進する機能の構築

新たな施設の5つのビジョン

新たな拠点の機能（案）を検討するにあたり、これまでの町民のニーズのヒアリング及び和寒町の社会資源等の状況を踏まえ、下記5点を重点としたいと考えます。

- (1) 最期まで暮らし続けることができる特別養護老人ホームの体制構築
- (2) あらゆる住民が安心して在宅生活を送ることができる在宅支援サービスの体制構築
- (3) 子どもたちが大切にされる機能の構築
- (4) あらゆる住民が活躍できることを実現する「雇用創出」機能の構築
- (5) 和寒町の特色である農業・食文化を推進する機能の構築

新拠点のコンセプト

特別養護老人ホームを核として在宅、こども、町内外の住民という円環状の福祉サービスの広がりの中に、「仕事」、「創作」、「食」という取組の柱を重ねることで、様々な人の活動を支える拠点づくりをめざします。

